

第1回検討会での主な意見について

資料-1

主な意見	意見への対応	備考欄
<b>第1回検討会 資料-2 東北地方太平洋沖地震における地震動</b>		
1 堤防被災と地震動の関係を見るには、個々の河川堤防の位置とそれに対応する地震動がどうだったのか、個別にみたほうがいい。(風間)	参考資料にて大規模被災箇所と各観測所の位置関係を示し、被災箇所でのどの程度の地震動が発生していたのかを整理しました。また、資料4では、観測記録を用いて被災の検証計算を試みました。	資料4 参考資料
<b>第1回検討会 資料-3 河川堤防の被災状況</b>		
2 液状化以外の要因があったのか評価することも今後重要。(東畑)	参考資料にて、被災主要因が液状化によるものであることを説明します。ご意見にある液状化以外の要因については、現地在緊急復旧のため堤防及び周辺を整形しており、確認できませんでした。	参考資料
3 地盤の良い箇所、過去の地震被災後の復旧工法で地盤改良を実施した箇所や耐震対策として予防対策を行った箇所などでは被害がなかった、又は軽微であったという事実、技術の信頼性についても情報発信すべき。(東畑)	資料6にて、L1耐震対策や浸透対策等の実施箇所では被害が軽減されていた事実について説明します。また今後、これらのメカニズムについての検討や、効果的・効率的な耐震対策手法となりえるか検討を行っていく予定です。	第3回検討会以降 (資料6)
4 微地形構造が地質構造の中でどのような意味をもっているのかを評価するとともに、管理延長毎や微地形毎の堤防延長当たりの被災延長のような視点で整理することも重要。(藤田)	延長の視点での整理については、参考資料で、「利根川下流」「小貝川」、「江合川」「鳴瀬川」「吉田川」の5河川について整理を行い、治水地形と堤防被災の関係について示しました。	参考資料
5 腹付け箇所での被災等が現地調査で見受けられたが、堤体の土質構造(築堤履歴)や材料、施工方法と被災実態との関係についての分析が必要。(中川)	腹付け材料の物性の違いが沈下量にどのような影響を及ぼすか等については、緊急提言(案)の継続して検討すべき課題として「効果的・効率的な耐震対策手法」の検討の中で、次回以降お示しする予定です。	第3回検討会以降 (資料5)
6 昭和61年の吉田川の破堤について、破堤箇所の基礎地盤や、もとの堤体材料と復旧工事に用いた材料の違い等について、比較・調査しておくべき。(中川)	参考資料にて、吉田川の昭和61年破堤箇所を示し、破堤箇所と今回大規模被災箇所が一致していないことを確認しました。なお、堤体材料と復旧工事に用いた材料の違い等については、事務所等に資料が残っていないことから分かりませんでした。	参考資料
7 宮城県内の堤防被災にみられるように、やわらかく厚い粘土層(軟弱地盤)の上に堤体があることは見過ごせない。(風間)	地震応答特性等について、緊急提言(案)の継続して検討すべき課題として「堤防の耐震照査・対策を効果的に推進するために必要と考えられる技術開発等の方向性」の中で、次回以降整理いたします。	第3回検討会以降 (資料5)
<b>第1回検討会 資料-4 耐震性能照査および対策の実施状況</b>		
8 津波浸水域を除けば、地震被災箇所での浸水による二次被害は生じていないが、被災箇所数が多いこともあり、緊急復旧、応急復旧に長時間要しているところもあるため、点検指針の若干の見直しが必要かもしれない。(東畑)	資料4「緊急復旧に要した期間」にて、緊急復旧の長期化とその要因に関する説明をします。	資料4
9 耐震矢板と止水矢板の構造の違いや、矢板の有無による堤防の変形の違いについて、将来的に検討していくべき。(岡村)	資料6にて、利根川下流における矢板施工箇所における今回地震での被災実態について整理いたしました。今後、矢板の有無や種類の違いが堤防変形量にどのような影響を及ぼすか等について検討を行い、効果的・効率的な耐震対策手法となりえるか検討を行っていく予定です。	第3回検討会以降 (資料6)
10 浸透に対する対策工が耐震対策としてどのように効くかについても検討課題と考える。(風間)	資料6にて、那珂川のドレーン施工箇所における今回地震での被災実態について整理いたしました。また、ドレーンが堤防沈下量に及ぼす影響について感度分析計算をいたしました。今後、継続して検討すべき課題として那珂川等の実河川における検証計算等を行い、次回お示しする予定です。	第3回検討会以降 (資料6)
11 解析では条件の設定方法で結果がどうにでもなる。ゆえに、解析結果にリアリティをもたせるためには、現位置の地質調査手法が重要である。調査方法によって違いが出るので、現在の調査方法の改良について将来的に議論していくべき。(風間)	緊急提言(案)の継続して検討すべき課題として「堤防の耐震照査・対策を効果的に推進するために必要と考えられる技術開発等の方向性」の中で、次回以降整理いたします。	第3回検討会以降 (資料5)
12 現在進めている治水地形分類図の更新作業は重要である。(東畑)	緊急提言(案)の継続して検討すべき課題として「堤防の耐震照査・対策を効果的に推進するために必要と考えられる技術開発等の方向性」の中で、次回以降整理いたします。	第3回検討会以降 (資料5)